

令和2年度 両荘中学校 自己評価

A できている B だいたいできている C あまりできていない D できていない

領域	評価項目	評価	自己評価の顕著な結果・意見等	学校関係者からの意見等	改善策
学力向上	「学習意欲を高めるためのわかる授業づくり」	B	<ul style="list-style-type: none"> 「授業を通して興味、関心を持てる」「楽しくわかりやすい授業がある」に肯定的な意見は昨年度より向上しているが否定的意見の原因を解消すべき。 ・OJTの活用により、小グループでの授業研究を行い、例年になく積極的な授業交流が行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲は教科 学年によりバラツキがある。 ・丁寧な対応、学習指導に感謝 ・補習学習、学習サポートサイトなど参考になった。 ・コロナの影響が授業が早くついていけない生徒もいたのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の目的」「教科の重要性」「関心」の高まる授業研究 ・視聴覚機器の活用、ICT活用をより積極的に行う。 ・ギガスクール構想1年目、教育機器をより効率よく使うための研究グループを作り、全ての職員がよりよく活動できる体制を研究していく。 ・アプリの使い方、授業に取り入れ方などの具体的校内研修を充実させる。
	「自主的・主体的な学習習慣と基礎学力のための家庭学習の定着」	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業内容の理解」否定的な生徒がいる、要因を考え改善する必要がある。 ・「わかりやすい授業を行っているか。」という項目に保護者から否定的意見がみられる。 ・「学習面でわからないところを自分で調べる、自主的に質問する」という項目が昨年度と比較して向上している。 ・「授業中先生、他の人の話を集中して聞く」項目は肯定的意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確実に全員ができる項目を決めて取り組み、底上げになっていくのではないかと？ ・グループでの協議、生徒同士の学びあう機会を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びも重要であるが「基礎学力の定着」に力を入れ、平均的な学力は確実に保証できるようにする。授業における演習の時間の確保、定期テストなどの平均点のキープ ・学校としての評価例、評価基準のガイドラインを各教科で作成する。 ・「何を学ぶのか」という目的をはっきりさせる。 ・「何が理解できたか」「それをどのように活用するのか」という考える時間、ふりかえる時間を確保する。 ・授業に真面目に取り組む生徒がほとんどである以上授業の質をより向上する研修を積極的に取り組む。 ・OJTによるグループによる公開授業は継続する。積極的な公開授業を行うために期間中の授業はすべて公開授業にする。(公開授業WEEKに関する具体化)
規律ある生活	「望ましい生活習慣の育成」	A	<ul style="list-style-type: none"> 「身の回りのことは自分で行う」は昨年度と比べても向上しているが、学年によってばらつきがある。 「自分の考えを話したり行動に移すようにしている」の項目が否定的意見が多い。 「あいさつや返事」「決まりを守る」などの項目は両荘中学校の誇るべき項目である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外にこだわらず、道端などですれ違いざまにはほとんどの生徒が気持ちの良い挨拶ができています。 ・学年が上がると挨拶ができる子供が増えている。 ・近所の人からもよく挨拶してくれると評価されている。 ・白い歯を見せて、挨拶してくれた瞬間、その日一日よいことがありそうな気になります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力を養う」ためにも自分のことは自分で行う、主体的な生徒を育てられるよう、声かけを重視する。 ・「自立する子供を育てる、自分で考えて行動できる。など目的をより意識した行事計画。」子供たちの意見を出させる授業展開 ・自分の事を自分で行う、生徒の自主性を向上させるために、「ハウスワークデー」の実践(家庭での手伝いを実施)感想等の紹介。
	「生徒理解と信頼関係づくりのための相談活動や個別指導の充実」	B	<ul style="list-style-type: none"> 「優しい声掛け」「いじめ、暴力がない」「クラスの人と仲良く」「困っている人を助ける」などの項目は概ね肯定的である。優しく、思いやりのある気質は両荘中学校の優れた面である。 「間違えたことを注意する。」「先生に報告する」などの項目に否定的な回答が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こころ豊かに」という面を伸ばしてもらいたい。 ・夏服のポロシャツ、女子のスボンなど制服の見直し ・冬服女子スカートでの登校を考慮できないか ・かばんの中身の減らし方 	<ul style="list-style-type: none"> ・両荘中学校の特徴を生かした、全校生の参加できる行事などを企画する。 ・「ボランティア活動」などの奉仕活動などの積極的な参加を呼びかける。 ・「自分たちの良さ」を再認識できる広報活動 ・「ほんとうに大切なこと」、「重要なこと」を理解させる教育、学級活動。 ・自分たちでルール作りができる学級経営
	「行事や部活動による良好な人間関係づくり」	B	<ul style="list-style-type: none"> ・間26、間27の行事に対してはコロナによって制限されたため、昨年よりも肯定的意見が少なかった。 ・「活動が制限された中で、生徒も教師も例年通りではなく新しい発想が生まれてきている。 ・「生徒会活動」に対しての肯定的意見が昨年よりも向上している。 ・「部活動は楽しい」の項目は肯定的意見が多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で公開できる機会が少なかった、できる限り公開できる行事を行ってほしい。 ・多くの行事などを実施して、違った意味での学びになった。 ・保護者が参加できる学校行事を設定してほしい。 ・学校行事にからめた地域の人々との交流をもつ。 ・給食試食会の開催 他学年との交流 ・地域の人や、教育力を取り入れる工夫を望む ・学年の格差を解消してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事などは中止にするだけではなく対策を講じて実施できる努力をする。 ・「できないことを嘆くよりも、やれることを全力で」間27の項目が全力で出し切れるようにサポートしていく。 ・「生徒が考えたことサポートし、自ら運営、成長できる生徒主体の行事、生徒会活動を運営していく。」 ・「少人数だからこそできる。」「少人数でもできる。」教育の実践 ・教育相談の回数を増やす。(担任とのかわりを密に) ・部長会、顧問会を定期的に行い(目的、目標、を明確化、反省課題を共有する。)
豊かな心・豊かな環境	「道徳の授業と人権教育」	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション道徳により、授業展開をさまざまな角度で研修する機会ができる。 ・学年道徳、経験のある教師が積極的に授業を行い考える機会が増えた。 ・個々の教師の道徳の授業準備にかかる時間が増えた。 ・生徒が討議する道徳の実践を行うに課題がある。授業が教師主体で行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ関連の差別問題について、授業に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にこだわらずそれぞれの先生が、持ち味を出して授業展開を行っている、今後も続けていく。 ・教師主体の授業ではなく「生徒が主体的に考え、討議する道徳」の実践 ・タブレットの有効利用を考える。
	「心と美しい学校を目指した環境づくり」	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は生徒、職員、スクールサポーターの努力できれいな状態に保たれている。 ・学校の環境はきれいで落ち着いた環境になっているという項目に対して肯定的な意見が多いことは両荘中学校の誇りにしたい。 ・生徒の緑化事業への関心が少なく、活動の意義が実感できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化プロジェクト良い試みである、生徒をまきこんだ引き続きの取り組みを期待する。 ・資源回収に力を入れる。コロナの中でも開催できることが実感できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の清掃活動の為に、毎日の清掃では回らない面がある。毎日清掃する箇所、特別教室など毎日必要のない場所には配慮が必要 ・ボランティアによる清掃も大切 ・緑化プロジェクト、グラウンド整備、草花、農作物の栽培、教育環境には多くの人の努力で保たれているが、生徒が参加している活動が少ない。生徒会活動や学年総合の時間を利用して自然環境を生かした学習に力を入れる。
信頼される学校	「学校生活の公開と広報活動の充実」	B	<ul style="list-style-type: none"> ・配布物を渡していない生徒が約20%いる。 ・保護者に学校のことを話さない生徒が2年生に多い。年齢的なこともあるのだろうか。 ・学校の様子を理解していない保護者が約30%いる。 ・約90%の保護者は学校から配布されるプリント等の内容がわかりやすいと感じている。 ・「相談できる先生がいない」生徒は1年生で8%3年生で約10%、2年生では約32%いる。 ・保護者は来校機会が十分設けられていないと答えている。コロナ渦のため来校が制限されているので仕方がない現状。 ・教師は保護者に対して誠意を持って対応していると答えているが、10%前後の保護者は配慮が足りないと感じている。 ・教師は誠意を持って保護者に対応していると考えているが、気軽に相談できないと感じている保護者が約20%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前から、良い印象があったが入学してからより一層良い印象を持つようになった。 ・緊急事態宣言時、メール、プリントの説明などで不徹底なものがあつた。 ・課題回収など教師によって回収物の把握も不徹底な時もあり子供たちが迷うこともあつた。 ・39メールは学校の情報が伝わる。(配布物の案内など) ・学校ホームページは定期的に更新され、学校の情報が確認できる。 ・年間行事計画がホームページに公開され予定が立てやすい ・hpの更新をできる限り早く、部活動の計画、連絡があれば掲載してほしい。 ・部活動の連絡を確実にする方法、連絡網も確実にする。 ・コロナ対策をマニュアル化して徹底する必要がある。 ・少人数だからこそできる教育を大切に、両荘中学校最後の3年間で(日本一の学校に) ・地域行事にも多く参加してもらっている。 ・明るい姿の生徒を見ていると、「学校が好きなんだ。」と思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・39メール、HPをさらに改善、工夫して、学校生活の様子や教育方針や取り組みをできるだけ理解してもらおう。 ・通信等の配布プリントは現在の取り組みを継続する。 ・現在行っている定期的、または不定期的教育相談、休み時間や登下校中の見守り、声かけを続けることによって、さらに生徒理解に努める。 ・学校行事については今年度のような状況が続くようであれば、実施不可能である。できることを臨機応変に考える力を身に着ける。 ・行事の際、案内表示や環境整備など細かい配慮をもって行う。 ・連絡を密にすることによって、学校の教育活動に対する理解を深めて、地域、保護者との信頼関係が築いていく。